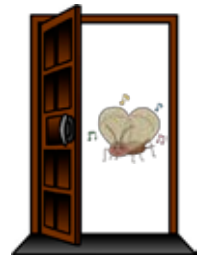




# ようこそ！ 市長室へ

47



## きれいなまちで安全・安心に暮らそう

「ごみが散らかっていたり、落書きが多く、すれ違って挨拶されないところは、他人や地域に無関心な町だから、狙い目だ」と、空巢の常習犯だった人から聞きました。道路脇や公園、家々にきれいに花が植えられ、ごみもなく、挨拶が交わされる、そんな地域は、気持ちがいいものですね。

市内では、小中学生、企業、自治会、ボランティア団体など多くの方々が地域を清掃してくれています。また、年に2回行われる花いっぱい運動では、小さい子から年配の方まで、協力して地域をきれいにします。

可児署管内では、ピーク時に比べて刑法犯は約30%に、少年非行は約6%まで減少してきていま

す。地域をきれいにし、安全・安心なまちづくりを進めましょう。

本市には、ロードサポーターとボランティア清掃の2つの制度があります。ロードサポーターは、市が管理する道路の除草や清掃などをしてくれる団体で、活動費用の一部を市が負担します。現在36団体が活動してくれています。ボランティア清掃は、公共の場所を清掃する団体や個人にボランティア用のごみ袋をお渡しし、集めたごみの処理は市が行います。市だけではとても無理なので、より多くの皆様のご協力をお願いしたいと思います。

そんなボランティア団体の一つ「鳩吹山を緑にする会」の皆さん



この日は小雨の中の清掃活動。少しの時間で可燃ごみ12袋、不燃ごみ2袋が集まりました。

んにお話を伺いました。大火災を被った鳩吹山に植樹をしようとして、昭和63年に結成されました。現在では国道41号の清掃活動や、帷子・薬王寺の希少植物保全などの活動をされ、今年で結成30周年です。

「月1回、国道41号の清掃をしています。なかなかごみが減りません。以前、大雨で側溝にごみが詰まって、帷子インターの辺りが浸水してしまいました。災害を防ぐためにも、少しでも地域がきれいになればと願って、ごみ拾いを続けています」会員には外国籍の方もおられ、一緒にボランティア



缶、ペットボトルなどさまざまなごみがあり、常習的に捨てられていると思われるごみも。タバコの吸殻が入っている缶の処理に大変苦勞するそうです。

活動がされています。

サッカークワールドカップで、日本が負けた試合後に、応援席のごみ拾いをしていた日本人サポーターの姿が、世界から賞賛を受けました。ごみ拾いをする他国のサポーターも出てきたそうです。「自分たちの地域を自分たちの手できれいにする」そんなことが、可児市では、当然の日常になっていけば素晴らしいですね。

可児市長 三浦成伸